

山行報告書

作成:2010年1月22日
愛知岳連 岡崎山岳会

山名[山域]	世附権現山 1018.8m[西丹沢]	目的[方法]	新年富士見読図山行
期間	1月16日(土)~1月17日(日)	形態	馬蹄形縦走(日帰り)
参加人数	1人+会員外2名		

行動記録: 1/16(土)

自宅(645) === 岡崎 IC === 富士川 SA === 海老名 SA===東京IC(1030)===マルジ P(1100,1120)===息子宅(1130,1315) ===マルジ P(1320,1330)====長津田駅(1430,1440) ===横浜町田 IC===大井松田 IC===道の駅山北(1535,1550)===ひだまりの里 TS(1600)

1/17(日)

起床(430) ひだまりの里 TS(645) ===浅瀬ゲート(700) = ==丹沢湖記念館 P===浅瀬ゲート(745,750) ---- 浅瀬橋(800) --- 法行橋---千鳥橋手前(945,1005) ---千鳥橋---二本杉峠(1115,1120) ----P849(1140) ---- 世附権現山 1018.8m (1220,1330) ---P756(1410) --P661(1445) --- 浅瀬橋--- 浅瀬入口(1530) --- 丹沢湖記念館(1535,1605) --- 中川温泉(1615,1730)===新松田駅(1805,1815)===大井松田 IC===日本平 SA(1945,2020)=== 岡崎 IC ===自宅(2200)



日誌:1/16(土)晴れのち曇り

酷寒の高速道を先急ぐ車はなく、岡崎～浜松間は80～90/hの流れに沿い、朝日に輝く浜名湖、神々しい富士山、黒々と深い丹沢山塊と景色を楽しみながら東京ICを降りる。用事を済ませ、Tさんと共に一般道から長津田駅でNさんと合流し高速道から丹沢湖近くのオートキャンプ場ひだまりの里へ向かう。管理人さんから猟友会に入山することを伝えてくださるとのことで幕営していると突然銃声がドォーォーン。殺傷能力ある猟銃のようで明日が心配だ。…忙しいNさんが夕食を準備してくださり本格トマト鍋とチーズ入りサンドイッチはお若いのにあっぱれだ。読図・山話・先生の話に尽きることなく20時半には灯りも消え静かな夜となる。

1/17(日)晴れ

3時に目覚めるとシラフの中でも少し寒く4時半を待って起床。朝食は昨夜のトマト鍋に十穀米入りのリゾット。寒い朝にぴったりで美味しい。2時間でテントを撤収するが車に霜が凍りつき、暖気してから出発する。ダム湖左岸のR729はセンターラインのある綺麗な舗装路で凍結もなく走行すると、ゲート50m手前には10台程可能な駐車場とゲート横には猟友会事務所にピンクの公衆電話もある。6～7人のハンターさんが集まる中で、コースを確認すると～猟区のと椿丸からの下り尾根道の半分が微妙に重なる。3人で相談し、世附権現山と決め、変更した計画書を提出すると、ご好意で下山口まで往復していただき、車を回収する為の1時間を短縮できた。(登山者の注意だけでは難しく、今後の反省材料とする。)

50分遅れの出発。日陰で寒々とする単調な大又沢林道からビーク同定(さすがのお二人)、流水量から見る沢の格付けをしながら歩いていると、ハットホル持つ男性がダムまでと言って過ぎ去るが結局出会うことはなかった。荒廃道に入る千鳥橋から「左に2本、尾根回りこんで、トラバース…」「左2本で分かり合えるのがいいね」と頼もしいNさんの先読み。薄い足跡あるふかふかの落ち葉の上から大又沢を覗くと滑落すれば50m程ある。しっかりした根をつかんで慎重に通過。岩ガレもあるので下りに使うにはやはり十分に注意したいところだ。枯れ沢を右左と進み杉林の中をよく探せば、二本杉峠(鞍部)に出るジグザグ道が見つかる。峠から明瞭な北尾根道となり、西側の樹間に真っ白な富士山が微笑んでいる。朝のゴタゴタで忘れていただけに嬉しい。しばらく歩くと突如の銃声…息を呑む響きだ。椿丸方面だろうか?あの男性は大丈夫かな～。積雪2cm急登をTさん先頭に進めば黒いテーブルが2つある広い権現山頂に到着。餅入り雑炊と先客からボトフをいただき和やかな昼食となる。魅了するに十分な東側の丹沢山主脈の展望を後に、南東尾根を急斜面、鹿除け棚、ミツマタ群生地と下れば、一般登山道並みに道標もあるが、最後まで先読みをしてトンネル横に出る。猟友会の方にも御礼と下山報告し、中川温泉に寄ると我々だけでゆっくりできた。近づく松田駅…「もう終りだね～」の言葉を最後に再会を願って解散となる。

(岡崎～東京 ¥1750) (横浜町田～大井松田 ¥700) (大井松田～岡崎 ¥1000) (ひだまりの里¥6300/1張り)

感想:春を待つミツマタの花芽に思いを馳せながら、等高線を友にしたお二人と探求でき極めて有意義であった。